



2018年8月15日「奥浅草だより」第10号

「山谷の入り口を目指す“さんやカフェ”」

「さんやカフェ」は2018年3月にオープン。吉野通りのマンモス交番の向かい側にある10階建ての「ホテル寿陽」の一階にあります。改装したてのきれいなカフェで、いろいろな種類の飲み物や軽食が用意されています。一般社団法人「結 YUI」が主に外国人旅行者・バックパッカー向けのホテルと共に運営しています。

代表は福祉の研究者でもある女性で、長年、山谷地域とかわかっています。彼女が活動を通して気付いた点は、(1) 簡易宿泊所(ドヤ)に暮らす生活保護受給者たちは、心身に障害のある人を含めて、「収容型の自立支援施設」よりも自由な暮らしを求めている、(2) 月末に生活が苦しくなり、炊き出し等に並ぶ、(3) 路上にごみを捨てる人が多い、ということでした。ドヤの生活者の高齢化と共に、最近は若手の働き先の定まらない路上生活者も山谷地域で見かけられるようになってきているようです。「結 YUI」は、居住支援のみでなく、心のケアや医療等を配慮した束縛のない複合型の「見守り型宿泊所」の創設や清掃等の働き口の斡旋が自律的な支援になると提案しています。更に山谷の街の特徴である、たくさんの簡易宿泊所を再利用し旅行者用の安価で居心地の良い宿泊施設をつくり観光客を誘致し、地域住民、ドヤ生活者、外国人旅行者を含めた多様な地域コミュニティとしての山谷の街の発展と福祉事業を考えています。

「さんやカフェ」では、山谷地区への訪問者との交流を目的に、「思いやりコーヒー券」(誰かの為に、飲み物代一杯分を前払い)の販売も始めています。

～．．．．．
この「奥浅草だより」は『奥浅草 地図から消えた吉原と山谷』の発行後、話題を拾って不定期に発行しております。

サノックスのホームページからご覧になれます。 <http://www.sanox.co.jp>

佐野陽子・江原晴郎・森下恒子